両界曼荼羅

東寺蔵国宝「伝真言院両界曼荼羅」の世界

石元泰博

東寺蔵
国宝「伝真言院両界曼荼羅」の世界

両界曼荼羅

石元泰博

常州大学图书馆
藏书章

平凡社

両界曼荼羅

東寺蔵　国宝「伝真言院両界曼荼羅」の世界

二〇一一年十一月二七日　初版第一刷発行

著者　石元泰博
序文　辻井　喬
解説　真鍋俊照
協力　真言宗総本山東寺
発行者　石川順一
発行所　株式会社 平凡社
東京都文京区白山二-二九-四　〒一一二-〇〇〇一
電話　〇三-三八一八-〇七八八（編集）
〇三-三八一八-〇八七四（営業）
振替　〇〇一八〇-二九三九

装丁　太田徹也
編集　石川順一
製版　高柳　昇
翻訳　株式会社 メディア総合研究所
印刷　株式会社 東京印書館
製本　大口製本印刷 株式会社

© Yasuhiro Ishimoto 2011 Printed in Japan

ISBN978-4-582-27788-3
NDC分類番号 748
B4変型判（34.6 cm）総ページ 256
平凡社ホームページ http://www.heibonsha.co.jp/

落丁・乱丁本のお取り替えは、直接、小社読者サービス係までお送りください。（送料は小社で負担します）

目次

両界曼荼羅

序文　コスミックな対決の華――辻井　喬　004

胎蔵界曼荼羅　007

中台八葉院　016

遍智院、持明院　030

金剛手院　042

蓮華部院　054

釈迦院、文殊院　064

虚空蔵院、蘇悉地院　076

除蓋障院、地蔵院　094

外金剛部院　104

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

金剛界曼荼羅 131
成身会 136
三昧耶会、微細会、供養会 148
四印会 170
一印会 182
理趣会 190
降三世会、降三世三昧耶会 206
悟りの平面と祈りの立体の空間――真鍋俊照 225
あとがきにかえて 238
著者略歴 240
英訳序文、解説 254

目次

両界曼荼羅

序文　コスミックな対決の華――辻井　喬　004

胎蔵界曼荼羅　007

中台八葉院　016

遍智院、持明院　030

金剛手院　042

蓮華部院　054

釈迦院、文殊院　064

虚空蔵院、蘇悉地院　076

除蓋障院、地蔵院　094

外金剛部院　104

金剛界曼荼羅 131
成身会 136
三昧耶会、微細会、供養会 148
四印会 170
一印会 182
理趣会 190
降三世会、降三世三昧耶会 206
悟りの平面と祈りの立体の空間――真鍋俊照 225
あとがきにかえて 238
著者略歴 240
英訳序文、解説 254

コスミックな対決の華

辻井　喬

はじめて見た石元泰博さんの写真集は、一九六九年刊の『シカゴ，シカゴ』だったと思う。その頃、私はシアーズ・ローバックと西武百貨店との業務提携のために、よくシカゴに出掛けていたから、日本の著名な新進フォトグラファーがシカゴをどう見ているのかに興味があったのだと思う。

一九六二年、日本橋の白木屋で開かれた展覧会の作品は一九六九年十月に『シカゴ，シカゴ』という写真集として美術出版社から出版された。この日本版の写真集ではシュールリアリストの瀧口修造が、ホアン・ミロの作品に触れたヘミングウェイの、

「あの絵(カタロニアのモントロイグ農地と家を丹念に描いた絵)には、あなたがその土地に行って感じるすべてのものと、遠く離れていて、その土地に行けないときに感じるすべてのものがある」

という言葉を引いて石元さんの写真集の解説をしていた。私の場合、外国のその都市に屢々(しばしば)行くか、少し長期に滞在すると、ビジネス以外の何かを発見するという経験を幾度か繰り返していた。パリの場合はマルセル・デュシャンや抽象絵画を、ニューヨークの場合はジャスパー・ジョーンズに代表されるポップアートを、という具合であったが、シカゴについてはこの石元さんの写真集から、アメリカの、ある特定の芸術や歴史によって性格付けられていない生活というものの手触りを教わったような気がしている。

それは私にとって御本人が気付いていない学恩（学問上の恩恵）のようなものだけれど

も、そんな気持が私の方にはあったので、二〇〇四年五月に平凡社から『刻』という写真集が出版された時、身のほどもわきまえずに「天使の庵・光の刻」という少し長い詩を寄せたのであった。そのなかには、

その驚き(抽象というものの雄弁さ)を瞬間的な結晶化と言った人がいた
たしかに光の波が及ぶあたりで名前は意味を失くす

というようなフレーズを私は使っている。

この『刻』まではいいのだった。つまりそのように書くことが可能だったのである。しかし、対象が「両界曼荼羅」は、京都・東寺に伝わる胎蔵界・金剛界の両界曼荼羅であって、それ自体ひとつの宇宙を表現しているのである。

石元さんは一九七三年にこの曼荼羅を撮影され、その後、写真集として出版された一九七七年の直後、私も関係していた西武美術館で「曼荼羅展」としてその写真を展示した。

その時は怖さ知らず、ということもあり、石元さんの写真作品の深さと、両界曼荼羅の神秘性の共存の衝撃性というようなことをあまり突っ込んで考えなかったけれども、今回はいろいろな企画で「古寺巡礼」などを行い、数々の仏像や曼荼羅を丹念に見たりした後なので、石元さんの深いコスミックな写真の世界と、曼荼羅の世界がどのように相対峙するのかと考えると、少し怖いような気もしてくる。しかし考えてみると、包みこむコスミックな世界と、奥の方から真の姿を顕わすコスミックな世界がぶつかった上で調和するなら、そこに生まれるのはこの世のものとは思えない美の世界なのかもしれないのである。

(つじい　たかし　作家)

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

出撃歌唱祭譜

東寺（教王護国寺）蔵

伝真言院曼荼羅（西院本曼荼羅）
胎蔵界曼荼羅　全尊像一覧

凡例

●各院の配列は本書の構成に合わせた。

●読者の便に供するため、尊像名は原則として上から下へ、左から右へと配列した。但し中台八葉院と外金剛部院は東(上)から時計回り。

●二位、六位など、（　）内の数字は同名の尊像が並ぶ数を示す。尊名を調べる際は、左頁とあわせてご覧いただきたい。

中台八葉院　ちゅうたいはちよういん

大日如来　だいにちにょらい
（毘盧遮那如来　びるしゃなにょらい）
宝幢如来　ほうどうにょらい
普賢菩薩　ふげんぼさつ
開敷華王如来　かいふけおうにょらい
文殊（師利）菩薩　もんじゅ（しり）ぼさつ
無量寿如来　むりょうじゅにょらい
観自在（観音）菩薩　かんじざい（かんのん）ぼさつ
天鼓雷音如来　てんくらいおんにょらい
弥勒菩薩　みろくぼさつ

遍智院（仏母院）　へんちいん（ぶつもいん）

准胝仏母　じゅんていぶつも
仏眼仏母　ぶつげんぶつも
脇侍　伽耶迦葉　がやかしょう
一切如来智印　いっさいにょらいちいん
脇侍　優楼頻羅迦葉　うるびらかしょう
大勇猛菩薩　だいゆうもうぼさつ
大安楽不空真実菩薩
だいあんらくふくうしんじつぼさつ

持明院（五大院）　じみょういん（ごだいいん）

勝三世明王　しょうさんぜみょうおう
大威徳明王　だいいとくみょうおう
般若波羅蜜菩薩　はんにゃはらみつぼさつ
降三世明王　ごうざんぜみょうおう
（抜折囉吽迦羅金剛　ばじらうんからこんごう）
不動明王　ふどうみょうおう

金剛手院（金剛部院）　こんごうしゅいん（こんごうぶいん）

発生金剛部菩薩　ほっしょうこんごうぶぼさつ
虚空無垢持金剛菩薩　こくうむくじこんごうぼさつ
金剛輪持菩薩　こんごうりんじぼさつ
金剛鉤女菩薩　こんごうこうにょぼさつ
金剛牢持菩薩　こんごうろうじぼさつ
金剛説菩薩　こんごうせつぼさつ
金剛手持金剛菩薩　こんごうしゅじこんごうぼさつ
忿怒持金剛菩薩　ふんぬじこんごうぼさつ
懌悦持金剛菩薩　たくえつじこんごうぼさつ
脇侍　金剛使者（三位）　こんごうししゃ
金剛薩埵菩薩　こんごうさったぼさつ
虚空無辺超越菩薩　こくうむへんちょうおつぼさつ
金剛牙菩薩　こんごうげぼさつ
金剛軍荼利　こんごうぐんだり
脇侍　大力金剛　だいりきこんごう
脇侍　金剛拳　こんごうけん
持金剛鋒菩薩　じこんごうほうぼさつ
金剛鎖菩薩　こんごうさぼさつ
離戯論菩薩　りけろんぼさつ
脇侍　金剛使者　こんごうししゃ
脇侍　金剛鉤女　こんごうこうにょ
脇侍　金剛童子　こんごうどうじ
金剛拳菩薩　こんごうけんぼさつ

蓮華部院（観音院）　れんげぶいん（かんのんいん）

披葉衣菩薩　ひようえぼさつ
大随求菩薩　だいずいぐぼさつ
蓮華部発生菩薩　れんげぶはっしょうぼさつ
脇侍　蓮華部使者（三位）　れんげぶししゃ
白身観世音菩薩　びゃくしんかんぜおんぼさつ
寂堵波大吉祥菩薩　そとばだいきっしょうぼさつ
大勢至菩薩　だいせいしぼさつ
豊財菩薩　ぶさいぼさつ
耶輪陀羅菩薩　やしょだらぼさつ
毘哩倶胝菩薩　びりくていぼさつ
脇侍　蓮華部使者（二位）　れんげぶししゃ
不空羂索菩薩　ふくうけんじゃくぼさつ
如意輪菩薩　にょいりんぼさつ
聖観自在菩薩　しょうかんじざいぼさつ
脇侍　宝供養使者　ほうくようししゃ
脇侍　蓮華部使者　れんげぶししゃ
脇侍　使者　ししゃ
水吉祥菩薩　すいきっしょうぼさつ
大吉祥大明菩薩　だいきっしょうだいみょうぼさつ
多羅菩薩　たらぼさつ
脇侍　塗香供養使者　ずこうくようししゃ
脇侍　焼香供養使者　しょうこうくようししゃ
脇侍　鬘供養使者　まんくようししゃ
脇侍　多羅使者　たらししゃ
大吉祥安菩薩　だいきっしょうへんぼさつ
大吉祥明菩薩　だいきっしょうみょうぼさつ
大明白身菩薩　だいみょうびゃくしんぼさつ
脇侍　蓮華部使者（三位）　れんげぶししゃ
白処尊菩薩　びゃくしょそんぼさつ
寂留明菩薩　じゃくるみょうぼさつ
馬頭観自在菩薩　ばとうかんじざいぼさつ

釈迦院　しゃかいん

如来捨　にょらいしゃ
如来喜　にょらいき
舎利仏　しゃりぼつ
迦葉波　かしょうは
須菩提　すぼだい
大目犍連　だいもくけんれん
多摩羅香辟支仏　たまらこうびゃくしぶつ
栴檀香辟支仏　せんだんこうびゃくしぶつ
如来爍乞底　にょらいしゃくってい
虚空蔵菩薩　こくうぞうぼさつ
釈迦牟尼　しゃかむに
観自在菩薩　かんじざいぼさつ
脇侍　無能勝妃　むのうしょうひ
脇侍　無能勝金剛　むのうしょうこんごう
如来牙　にょらいげ
輪輻辟支仏　りんぷくびゃくしぶつ
宝輻辟支仏　ほうふくびゃくしぶつ
拘絺羅　くちら
阿難　あなん
迦旃延　かせんねん
憂波利　うぱり
智拘絺羅　ちくちら
供養雲海菩薩　くよううんかいぼさつ
如来慈　にょらいじ
如来愍　にょらいみん
如来悲　にょらいひ

虚空蔵院　こくうぞういん

脇侍　飛天（二位）　ひてん
禅波羅蜜　ぜんはらみつ
精進波羅蜜　しょうじんはらみつ
忍波羅蜜　にんはらみつ
戒波羅蜜　かいはらみつ
檀波羅蜜　だんはらみつ
虚空蔵菩薩　こくうぞうぼさつ
般若波羅蜜　はんにゃはらみつ
方便波羅蜜　ほうべんはらみつ
願波羅蜜　がんはらみつ
力波羅蜜　りきはらみつ
智波羅蜜　ちはらみつ
脇侍　飛天（二位）　ひてん
千手千眼観自在菩薩
せんじゅせんげんかんじざいぼさつ
不空鉤観自在菩薩　ふくうこうかんじざいぼさつ
忿怒鉤観自在菩薩　ふんぬこうかんじざいぼさつ
生念処菩薩　しょうねんじょぼさつ
共発意転輪菩薩　ぐほっちてんりんぼさつ
無垢逝菩薩　むくせいぼさつ
蘇婆胡菩薩　そばこぼさつ
金剛針菩薩　こんごうしんぼさつ
蘇悉地羯羅菩薩　そしつじからぼさつ
曼荼羅菩薩　まんだらぼさつ
一百八臂金剛蔵王菩薩
いっぴゃくはっぴこんごうざおうぼさつ

蘇悉地院　そしつじいん

功徳天　くどくてん
婆藪仙　ばすせん
日天　にってん
十一面観自在菩薩　じゅういちめんかんじざいぼさつ
一髻羅刹　いっけいらせつ
孔雀王母菩薩　くじゃくおうもぼさつ
不空供養宝菩薩　ふくうくようほうぼさつ
不空金剛　ふくうこんごう
金剛軍荼利菩薩　こんごうぐんだりぼさつ
金剛将菩薩　こんごうしょうぼさつ
金剛明王　こんごうみょうおう

除蓋障院　じょがいしょういん

救護恵菩薩　くごえぼさつ
破悪趣菩薩　はあくしゅぼさつ
施無畏菩薩　せむいぼさつ
賢護菩薩　けんごぼさつ
不思議恵菩薩　ふしぎえぼさつ
（除蓋障菩薩　じょがいしょうぼさつ）
悲愍恵菩薩　ひみんねぼさつ
慈発生菩薩　じほっしょうぼさつ
折諸熱悩菩薩　しゃくしょねつのうぼさつ
日光菩薩　にっこうぼさつ

地蔵院　じぞういん

除一切憂冥菩薩　じょいっさいうみょうぼさつ
不空見菩薩　ふくうけんぼさつ
宝印手菩薩　ほういんしゅぼさつ
宝光菩薩　ほうこうぼさつ
地蔵菩薩　じぞうぼさつ
宝手菩薩　ほうしゅぼさつ
持地菩薩　じじぼさつ
堅固深心菩薩　けんごしんじんぼさつ
除蓋障菩薩　じょがいしょうぼさつ

外金剛部院（最外院）　げこんごうぶいん（さいげいん）

東

伊舎那天　いしゃなてん
喜面天　きめんてん
常酔天　じょうすいてん
器手天　きしゅてん
器手天后　きしゅてんこう
地神后　じじんこう
堅牢地神　けんろうじじん
非想天　ひそうてん
無所有処天　むしょうしょてん
空無辺処天　くうむへんしょてん
識無辺処天　しきむへんしょてん
日天后　にってんこう
日天　にってん
微闍耶　びじゃや
帝釈天女　たいしゃくてんにょ
帝釈天女　たいしゃくてんにょ
守門天女　しゅもんてんにょ
守門天（二位）　しゅもんてん
守門天女　しゅもんてんにょ
持国天　じこくてん
大梵天　だいぼんてん
昂宿　こうしゅく
畢宿　ひっしゅく
参宿　さんしゅく
觜宿　しゅく
鬼宿　きしゅく
柳宿　りゅうしゅく
井宿　せいしゅく
牛宿　ぎゅうしゅく
羊宮　ようくう
男女宮（二位）　なんにょくう
計都星　けいとせい（彗星　すいせい）
流星　りゅうせい
日天眷属　にってんけんぞく
婆藪仙后　ばすせんこう
火天后　かてんこう

南

火天　かてん
阿詣羅仙　あけいらせん
阿詣羅仙后　あけいらせんこう
瞿曇仙　くどんせん
瞿曇仙后　くどんせんこう
自在天女　じざいてんにょ
毘紐女　びちゅうにょ
夜摩女　やまにょ
賢瓶宮　けんびょうくう
双魚宮　そうぎょくう
磨竭宮　まかつくう
羅睺星　らごうせい
木曜　もくよう
火曜　かよう
軫宿　しんしゅく
星宿　せいしゅく
亢宿　こうしゅく
張宿　ちょうしゅく
翼宿　よくしゅく
角宿　かくしゅく
氐宿　ていしゅく
薬叉持明　やくしゃじみょう
薬叉持明女（二位）　やくしゃじみょうにょ
増長天　ぞうちょうてん
使者　ししゃ
難陀龍王　なんだりゅうおう
烏波難陀龍王　うはなんだりゅうおう
阿修羅（二位）　あしゅら
閻魔天王　えんまてんのう
黒暗天女　こくあんてんにょ
太山府君　たいざんふくん
死鬼衆（二位）　しきしゅう
鬼衆女（二位）　きしゅうにょ
鬼衆（六位）　きしゅう
荼吉尼衆（三位）　だきにしゅう
成就持明仙衆（四位）　じょうじゅじみょうせんしゅう
摩尼阿修羅　まにあしゅら
使者（二位）　ししゃ
阿修羅　あしゅら
使者（二位）　ししゃ
迦楼羅王　かるらおう
迦楼羅女　かるらにょ
鳩槃茶女　くばんだにょ
鳩槃茶女　くばんだにょ
羅刹童子　らせつどうじ
羅刹童女　らせつどうにょ

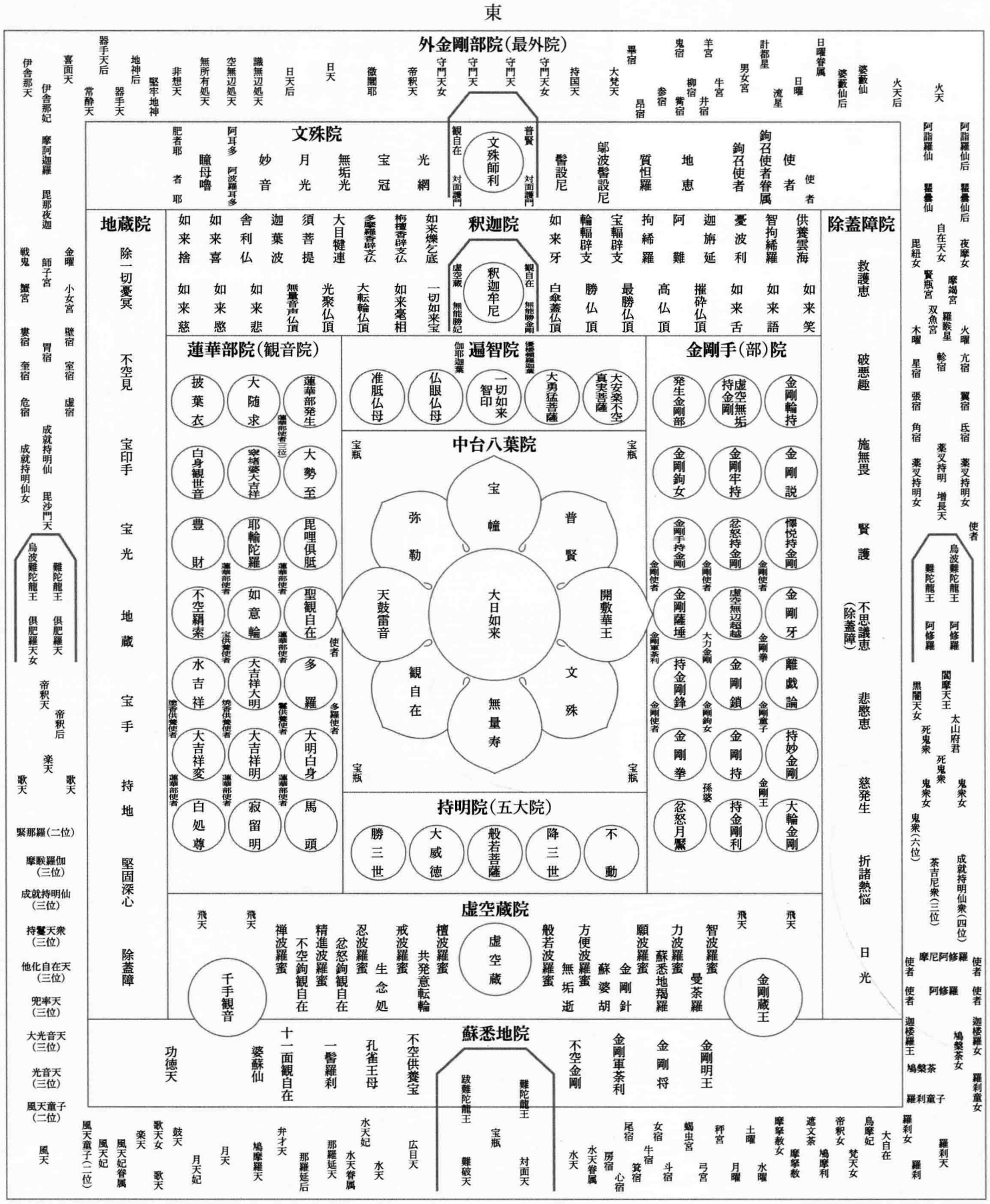
西

羅刹天　らせつてん
羅刹　らせつ
羅刹女　らせつにょ
大自在　だいじざい
烏摩妃　うまひ
梵天女　ぼんてんにょ
帝釈女　たいしゃくにょ
鳩摩利　くまり
遮文荼　しゃもんだ
摩拏敖　まぬしゃ
摩拏敖女　まぬしゃにょ
水曜　すいよう
土曜　どよう
月曜　がつよう
秤宮　ひょうくう
弓宮　きゅうくう
蝎虫宮　かっちゅうくう
斗宿　としゅく
女宿　にょしゅく
牛宿　ぎゅうしゅく
箕宿　きしゅく
尾宿　びしゅく
心宿　しんしゅく
房宿　ぼうしゅく
水天眷属　すいてんけんぞく
水天　すいてん
難陀龍王　なんだりゅうおう
跋難陀龍王　ばつなんだりゅうおう
対面天　たいめんてん
難破天　なんぱてん
広目天　こうもくてん
（毘楼博叉天王　びるはくしゃてんのう）
水天　すいてん
水天妃　すいてんひ
水天眷属　すいてんけんぞく
那羅延天　ならえんてん
那羅延后　ならえんこう
弁才天　べんざいてん
鳩摩羅天　くまらてん
月天　がつてん
月天妃　がつてんひ
鼓天　こてん
歌天　かてん
歌天女　かてんにょ
楽天　がくてん
風天妃眷属　ふうてんひけんぞく
風天妃　ふうてんひ
風天童子（二位）　ふうてんどうじ

北

風天　ふうてん
風天童子（二位）　ふうてんどうじ
光音天（三位）　こうおんてん
大光音天（三位）　だいこうおんてん
兜率天（三位）　とそつてん
他化自在天（三位）　たけじざいてん
持鬘天衆（三位）　じまんてんしゅう
成就持明仙（三位）　じょうじゅじみょうせん
摩睺羅伽（三位）　まごらが
緊那羅（二位）　きんなら
歌天（二位）　かてん
楽天　がくてん
帝釈后　たいしゃくこう
帝釈天　たいしゃくてん
倶肥羅天女　くびらてんにょ
倶肥羅天　くびらてん
難陀龍王　なんだりゅうおう
烏波難陀龍王　うはなんだりゅうおう
毘沙門天　びしゃもんてん
成就持明仙　じょうじゅじみょうせん
成就持明仙女　じょうじゅじみょうせんにょ
虚宿　きょしゅく
危宿　きしゅく
室宿　しつしゅく
奎宿　けいしゅく
壁宿　へきしゅく
婁宿　ろうしゅく
胃宿　いしゅく
小女宮　しょうにょくう
蟹宮　かいくう
師子宮　ししくう
金曜　きんよう
戦鬼　せんき
毘那夜迦　びなやか
摩訶迦羅　まかから
伊舎那妃　いしゃなひ

両界曼荼羅(伝真言院曼荼羅)胎蔵界



平凡社『伝真言院両界曼荼羅』(1977)、東寺宝物館図録『東寺の大曼荼羅図』(2004)を参考にした

胎蔵界曼荼羅　『大日経』や空海の『御請来目録』には「大悲胎蔵生曼荼羅」「大悲胎蔵曼荼羅」とあり、「胎蔵曼荼羅」とよぶのが正しいとされるが、古くから「金剛界曼荼羅」にあわせて「胎蔵界曼荼羅」ともよばれてきた。大日如来を中心とした四重の同心円状の構造を持ち、十二の院から構成され、四二〇の尊像が描かれている。大日如来の悟りを求める心（菩提心）と慈悲から、あらゆる仏が育まれ生まれることを表すという。仏殿では本尊に向かって右側（東）に掛けられ、図は上方を東とする。

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com